

議長（志村 忠昭）

それでは、休憩前に引き続きまして会議を再開いたします。

次に11番渡邊美喜子君。

議員（渡邊 美喜子）

11番、渡邊美喜子、一般質問させていただきます。

質問は、高齢者の足である、交通の確保についてであります。

高齢化の進展に伴い、多くの住民の方から交通の確保の要望や意見をよく耳にいたします。

「車の運転ができているときは、多少不便な所に住んでいても困りませんが、年をとって車を手放しすることになると、生活ができない、不安です。」「高齢者の交通事故が多発しているので運転免許を自主返納したいが、移動手段がないので返納ができない」など切実な声を聞いております。

また、高齢者の交通事故件数は増加の一途をたどり、近年高齢者が第1当事者となる死亡事故件数は毎日のように報道され、特に70歳以上の運転者死亡事故の割合は年々増加傾向にあることも大きな要因であります。

多くの自治体が高齢者の足を確保することを喫緊の課題として取り組んでいます。

その一例といたしまして、先日新聞で、徳島県の応神ふれあいバス運行のことが掲載されておりました。

車を持たない人や運転免許証を返納した人など、買い物、通院時の交通手段確保が自的、住民有志が応神ふれあいバス運行協議会を設立し、市内のタクシー会社に委託、2011年12月よりバス運行週3回、1日4往復、片道300円、往復の場合は400円、誰でも乗車できる。

利用者、2011年は1,131人、2012年は4,285人、2013年は4,108人、2014年は4,727人、2015年は4,684人、2016年12月までの9カ月で3,293人。

バスの定員は8人であり、今後の課題は車両の大型化が必要になってきているとのこと。

定期券利用者は60歳から90歳の約80人が定期券1年分9,980円、半年分5,980円で、このうち20人程度が免許自主返納しています。

総事業費は、年間約352万円です。

2016年の企業からの協賛金が約25万円、国の地域公共交通確保維持改善事業費補助金が約99万円で、不足分は徳島市の地域自主運行バス支援事業補助金約196万円で補っています。

住民有志の皆さんが主体で運行しているので、停留所は10キロメートルの間に30カ所あり、手づくりの時刻表でもあります。

住民主体の事業に全国から多くの自治体が視察に来られ、注目を浴びていま

す。

2例は、まんのう町のデマンドタクシーについてであります。

電話予約により、自宅から町内の病院、公共施設など目的地まで送迎するサービス、1回料金300円。

この事業は商工会議所へ委託し、2013年年間利用者は1万963人、1日平均45人、ドア・ツー・ドアで送迎し、通院や買い物の移動手段の確保に役立っています。

事業予算の総事業費は、2,842万5,000円で、財源内容は、過疎対策事業債2,300万円、乗車売り上げ489万9,000円、一般財源は52万6,000円です。

行政、地元商工会、交通事業所、町内各種団体が交通施策議論を行い、現在に至っております。

以上、2例を挙げましたが、また瀬戸内中讃自立圏の各市町では独自で公共交通施策を実施し、市町の連携についても取り組んでいると聞いております。

今後、高齢者などの交通弱者、通勤、通学者の移動手段確保の必要性について多度津町はどのように考えているのかお伺いします。

以上です。

町長（丸尾 幸雄）

渡邊議員の、高齢者などの交通弱者、通勤、通学者の移動手段確保の必要性についてのご質問にお答えをしております。

瀬戸内中讃定住自立圏域構想のコミュニティバスの市町間連携事業につきましては、コミュニティバスの路線延長や新規路線整備は財政負担が過大であるとして、各市町の独自交通施策との連携を図ることとなっております。

高齢者の足である交通の確保でございますが、高齢者などの交通弱者対策の必要性は理解しておりますが、当町におきましては、過疎対策事業債などの財源が適用できず、単独事業とならざるを得ないこと、地域住民有志による事業に対する補助という形での事業が現時点で見込みがないことなど、単独事業としてのイニシャルコストや持続可能性の困難さにより、検討が進んでいないのが現状でございます。

議員ご指摘のとおり、免許の自主返納後の移動手段の確保など、施策の必要性は認識しておりますので、ほかの高齢者施策との連携も図りつつ、引き続き検討していきたいと考えております。

ご理解、ご協力をお願い申し上げて、答弁とさせていただきます。

議員（渡邊 美喜子）

今、町長さんがご答弁いただきました。

そこで、ちょっと気になる、私が調べたのとは少し異なっている部分がございます。

それは、過疎対策事業債などの財源が適用できず、単独事業とならざるを得ないということなんですけども、これはそうなんですか。質問いたします。

総務課長（矢野 修司）

ただいまの渡邊議員の再質問にお答えをいたします。

香川県内の地域指定の中で、多度津町というのは過疎地域ではございません。

そういったところから、先ほどの町長の答弁の中で申し上げましたように、過疎対策事業債の活用はできないというふうに理解をいたしております。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（渡邊 美喜子）

実は、私が調べた中では、ちょっと読み上げます。

地方公共団体が公共交通施策を主体的に実施するという事は、その方向性を決める地方議会が極めて重要な責任を担うことを意味する。

地方公共団体は、規制緩和以前は国や事業者に要望を出したり補助金を出して運行をお願いしたりするぐらいしかできなかったわけですが、今や通常の国の許認可を弾力化した、いわゆるコミュニティバスやデマンドタクシー、交通の運行が市町村の施策に基づいて運行できるようになっている。

それを可能とする法制度が、2006年改正道路運送法に基づき市町村が設置できる地域公共交通会議であるというような文章があるんですけどもどういうふうに解釈すればいいのでしょうか。

この文章の中では、地方自治体が申請し、やれば、コミュニティバスとかデマンド交通の運用が可能になるという部分のふうに私はとってるんですけども、そういうふうにとるのは間違ってるのでしょうか。

総務課長（矢野 修司）

ただいまの渡邊議員の再質問にお答えをいたします。

今、議員が読み上げられた文章の出典がいずれの意によるものかは存じ上げませんが、申し上げたことにつきましては、地域公共交通会議のほうでの審議結果を経て、そのコミュニティバスの運行を各自治体を実施することができるというような意味合いでなかろうかというふうに思います。

確かに、地域公共交通会議というものにつきましては、過去は以前路線バスが走っていたことがあります、当然そのときはどうだったのかは存じ上げませんが、今現在全国各地でコミュニティバス、これについてはデマンドタクシー、あるいは先ほど渡邊議員がおっしゃられた地域コミュニティによる運営も含めての話でございますが、そういった運行について運行許可を得る

ためには、地域で関係事業者及び行政、また実施主体になるであろう地域コミュニティ、そういった関係者が一堂に会する地域公共交通会議というものを開催をして、その中で運行計画案から始まりましてその試験運転等々のステップを経まして実施にこぎつけることがシステム上できるというふうには認識をいたしております。

ただ、その会議を開催するに当たっては、ある程度の実施案が固まらなければいけないという認識は当然いたしております。

そういったところから、先ほど町長の答弁の中にもございましたが、今のところコミュニティバスに関しては財政的に非常に厳しいものがあるというのは従来より一般質問の中での答弁として申し上げさせていただいております。

また、新たな形としてのデマンドタクシー、あるいはコミュニティによる運営につきましては、どちらかといえば地域のニーズという機運が高まってきたときには、当然それを受ける形で行政もできる形で協力はしていかなければいけないというふうに思っておりますが、今のところその状況がないということでご理解をいただきたいというふうに考えております。

よろしく申し上げます。

議員（渡邊 美喜子）

私になぜ今回交通確保について、高齢者の足について取り上げたかと申しますと、実はなぜ一般質問を交通確保、今までに他の議員の方、何回かされておりますので、でも私になぜ取り上げたかという理由をお話ししたいと思っておりますが、実は町長さんの施政方針の中で、10月に発足しました住民による協議体、多度津支え合い笑顔の会、その中の私はメンバーの一人でありまして、勉強会において、以前にグループ分けをしてこの多度津町にどういったことを要望するのか、どういう多度津町になってほしいのかということでもいろいろと討論をいたしました。

その中で、少し驚いたんですけども、私のグループはほとんどの方が移動手段、コミュニティバスとかデマンドタクシーということで、どうにかしてほしいということで、ほとんどの方がそういう意見が出ました。

ニーズの大きさに正直言って驚いてるわけですが、時代の流れ、そして高齢化率が高くなってきていると、また交通事故に関しまして、そういう部分が複雑に絡み合っただけでこういうニーズとして上がってきたのかなというふうに思っております。

そこで、私は今回一般質問、取り上げさせていただきました。

そこで、ちょっと質問いたしますが、この一般質問の原稿、3月1日に提出しました。

その昼から、介護保険事業計画、高齢者保健福祉策定委員会ということが昼からありまして、その折に福祉保健課の藤原課長さんのほうから介護についてのお話もいろいろと説明がありました。

そして、住民の皆さんにアンケートということで、その説明もいただいた中で、詳しくはちょっとわからないんですけども、コミュニティバスの要件が何件かあったというふうに聞いております。

その点、大事なところだと思いますので、藤原課長さん、詳細にお伺いしたいと思います。

よろしくお願いいたします。

福祉保健課長（藤原 安江）

失礼いたします。

渡邊議員の再質問の介護保険事業計画策定に当たりましてのアンケート調査、住民のニーズ調査の結果についてのご質問についてお答えいたします。

これは、第7期の介護保険事業計画等策定に当たりまして、1,500人の住民の方、高齢者の方にアンケート調査を行いました。

その中の自由記載欄の中に、1,159人の回答者の中から14名の方が、高齢となり免許の自主返納、また車に乗れなくなったというふうなこと、また体力的なことが課題で買い物に行きにくくなったということで、多かったのが、自由記載の中で14名の方が買い物に支障があるというふうなご意見があり、そういうふうなニーズに対して何か手だてをしてほしいというふうなことが回答としてございました。

以上でございます。

議員（渡邊 美喜子）

ご答弁ありがとうございます。

その中で、もしもバスとかデマンドタクシーを実施した場合いろいろとあると思う。

もし多度津町に実施した場合、どんな利点があると思いますか。

町長さん、お願いいたします。

町長（丸尾 幸雄）

渡邊議員さんのご質問にお答えをしてみますが、まず私の考えから、まずは申し上げさせていただきたいと思っております。

私は町議会議員をしておりました。

もう10年近く前のことになりましたけども、そのときに私も一般質問をさせていただきました。

コミュニティバスの必要性というのは、そのころから十分に認識をしておりました。

ちょうどそのころは随分と町財政が悪くて、そして非常に新しい事業に対する財政出動というのが困難な時代でありました。

その時代でも、やはり町民の、高齢者の足を確保する、生活の安定を保っていく、そういうためにはどうしてもコミュニティバスのような高齢者の、また大衆の足を確保するという、それは非常に大事だと常々思っております。

そのときの行政、私が町会議員のときの答えとして試算された金額というのが余りにも大きな金額でございました。

その当時、今からいえば14、5年前ですか、その当時これでは無理だなと、財政がまた破綻してしまう。

その当時も、今もそうですけども、借金が非常に多い町財政運営の中でいかに効率よく、また町民のニーズにお応えしていくかということを考えるのが私どもの務めではないかと思っております。

そういう中で、今は高齢者の福祉タクシー事業を行っておりますし、様々な検討は私が町議会議員のときから引き続き行っておることではありますが、今丸亀市を中心とした定住自立圏構想の中で、丸亀市そして善通寺市はコミュニティバスが運行しておりますので、その中に多度津町も加えてほしい、このことは私が町長に就任させていただいてすぐに、定住自立圏という圏域構想ができてすぐにお問い合わせをしたことではありますが、その当時の返事といたしましては善通寺市、丸亀市の財政負担が余りにも多くなり過ぎる。

このコミュニティバスというのは決して利潤が出るものではありません。

このコミュニティバスを運行すると、行政は必ず赤字になります。

その赤字の幅を極力下げるということを努力するということが必要になってきます。

そういう中におきまして、丸亀市も善通寺も、もちろん多度津が入れば多度津も負担をするわけではありますが、その中におきましても善通寺も丸亀も負担が大き過ぎるということで、その当時はできないというふうに言われました。

しかし、その後も引き続き、今多度津町民の利便性を考えると多度津町内だけのバスではなくて、やはり町民の皆さんが何を必要としているのか、足を必要としている、その理由としましては買い物とか、それから病院です、そういうことを考えるとやはり善通寺と丸亀と一緒に連携をしながらコミュニティバスの運行を図っていくことが多度津町民の利便性にかなうんじゃないか、一番利便性を向上することじゃないか、そういうことを今考えて真剣に取り組んでいるところであります。

このコミュニティバスという名称だけではなくて、様々な取り組み方を今、検討しているところでありますので、必要性に、町民の足の確保と、高齢者

の足の確保ということにおきましては十分過ぎるほど認識をしているつもりでありますので、どうかいい案がありましたら議会の皆様方にもそういう案を提示をしていただきたいと思いますと思っております。

答弁とさせていただきます。

議員（渡邊 美喜子）

ありがとうございます。

そこで、なぜもしバス、デマンドを実施するようになった利点ってということで私もちょっと調べさせていただきましたが、やはり地域の活性化、この多度津町の活性化になるというポイントが私はあるんじゃないか。

それからもう一点です、人口減少も公共交通のあり方を変えていくと、そういう部分もあろうかと思えますし、高齢者の交通事故の防止にもつながります。

無駄遣いであるという声は今まで私も聞いたことないんですけども、でも今すぐどうこうっていう部分はできない部分があると思いますが、他の市町を真似したんではだめだと思えます。

そこで、参考までにとということで、地域に合った公共交通システムをつくり出すには専門的なノウハウを必要とする他の地域視察や書籍を数冊読んでも対応ができません。

確実に行うのは、臨床医と言えるような現場経験を持つ専門家を招き処方してもらおうという部分でございます。

これもすごく大事なことかなというふうに思っておりますし、例えばアンケートによってバスを出しました、でも乗ってる人は数人で、何というこれやったのかっていう部分が、よその自治体からもそういう意味も聞いております。

そういった意味で、やはり真剣にニーズをつかむっていうんも含めて専門家っていう部分のご意見も聞きながら前へ進めたら一番いいのかなというふうに思えますし、例えばアンケートなんですけど、アンケートの出し方にもいろいろあると思えます。

ここでデマンドタクシー、それからバス、多度津町出して欲しいですか、どうですか、マル、ペケ、これではやはり本当の意味でのニーズにはなりません。

そこで、アンケートをとるかどうかはまたお聞きしますが、実際、もしそのアンケートの内容なんですけども、新設されれば赤字分の負担を地域でやってもらうこと、その文章を入れることや、運行開始後一定期間存続するかどうかあらかじめ約束するなど、やはりそういう文面も書いた上で、町民の、住民の皆さんの正しいアンケートが出てくるように、そういう感じをしてお

りますので、今後本当に多くの意見等、私のほうに来ておりますので、そういう部分をされるのかされないのか、ちょっとお聞きします。

質問です。

総務課長（矢野 修司）

ただいまの渡邊議員の再質問にお答えをいたします。

要は、住民のニーズを掘り起こすためのアンケートを実施してはいかがでしょうかということかなと理解をいたしております。

議員も申されましたように、そのアンケートの内容は非常に難しいものがあるかと思えます。

恐らく利用しますかしませんかであれば、利用したいですというような答えになるのは大方目には見えておりますが、私自身の考えとしては、今現在高齢者の方々が実際日常生活、買い物でありますとか病院へ行くときの足をどのように確保されているのかというようなまず実態調査的な内容のアンケートにすることで現状をまず把握して、その現状を分析することでこういった手法が一番有効であるのかというような方法がベストかなというふうには考えております。

今のところ、そういったアンケートを実施するような計画は今のところはございませんが、先ほど来から話が出ておりますように、今現在高齢者福祉タクシーということで80歳以上の高齢者の方にはそういった制度がございます。

一方で、近年の交通死亡事故の多発を受けまして、免許証の自主返納制度、これも県内では多度津町、遅いところで実施をしたわけでございますが、2月末現在で今現在70名の方、男性46名、女性24名の方から返納をいただいております。

これは、28年当初で予定しておった30人を大きく上回る数字でございまして、途中補正も何回かさせていただいておりますが、そういった背景も踏まえまして、要は65歳から80歳のはざまにいらっしゃる高齢者の足をどう確保していくのか、これはこれからの行政の課題であることはもう明白であるというふうに考えております。

そういったところで、今、議員ご提案のアンケートですね、このやり方、内容も含めまして今後検討させていただきたいというふうに考えておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

よろしく申し上げます。

議員（渡邊 美喜子）

そうですね、アンケートほど難しいものはないと思いますが、やはり多度津町町民の皆さんの声としてアンケートは必要じゃないかなというふうには

正直思っております。

今のところかも分かりませんが、例えば善通寺におきましては、ちょっと調べさせていただきましたが、3,000万円ぐらいの対策事業債ですか、3,000万円程度です。

丸亀が6,000万円ということで、近隣はほとんど事業債を利用しております。そんな中で、坂出もありますし、近隣では琴平と多度津町は今のところこういう交通確保はできてないということで琴平の議員の方にもお話しさせていただきましたが、そういう声は徐々に聞こえてきているということを知っておりますので、ぜひとも多度津町では、すぐするから、明日、あさって、1年後というわけにはなかなかいかないと思います。

いろんなことをやりながら、改善しながらやってるのがどこも現状ですので、どうかこの点、ニーズを把握するということで、アンケートであり、いろんな部分で皆さんの声をしっかりと聞いていただければなというふうに思っております。

それから、やはりこれをすることによって、予算もあるとは思いますが、マイナス面だけじゃなくて、やはり大きないろんな地域の活性化、多度津町の活性化とかいろんな部分で利点もたくさん出てくると思いますので、今のところでしたらこのまま交通の手段がない、移動手段がないということは、やはり家の中へ閉じこもり、なかなか外へ出られないような状況、また医療面、精神的にも肉体的にも響いてくるということ、医療面のほうにもかかわってくる。

また、介護保険制度も関係してくるんじゃないかというんで総合的に考えていただきまして、今後一日も早くこういったこと、確保につきまして検討していただければというふうに思っておりますので、要望です。

よろしくお願ひしたいと思ひます。

終わります。